授業者も参加者も創る!!高まる!!広げる!!

# 西部の未来へバトンをつなぐ

## ～学校環境に最適な授業づくり～

複式授業づくり講座
【四万十市立大用小学校】
教材研究会：　９月２８日（木）
授業研究会：１１月２８日（火）

令和５年 12 月発行
西部教育事務所

西部管内の講座関係ＨＰ

学　　年：第３学年
単 元 名：世界の家のつくりについて考えよう
教 材 名：「人をつつむ形―世界の家めぐり」（東京書籍三下）
言語活動：記録や報告などの文章を読み、文章の一部を引用して、分かったことや考えたことを文章にまとめ伝える。

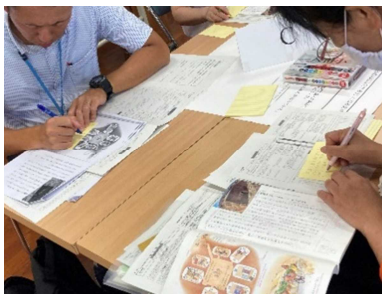
学　　年：第４学年
単 元 名：日本語の数え方について考えよう
教 材 名：「数え方を生みだそう」（東京書籍四下）
言語活動：記録や報告などの文章を読み、文章の一部を引用して、分かったことや考えたことを文章にまとめ伝える。

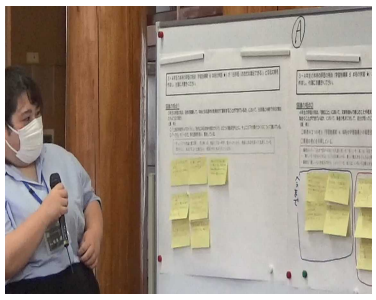
授業者　３・４学年担任
山脇　昌代　教諭

## 教材研究会

### ゴールの子供の姿から授業を描く（単式学級でも、複式学級でも）

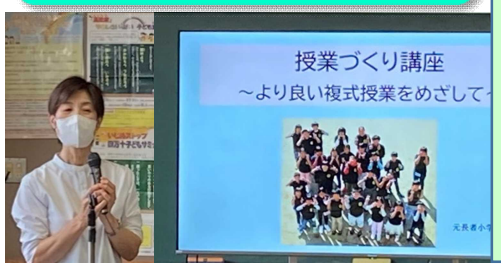
複式の授業づくりでは、「間接指導」と「直接指導」をどう組み立てるのかを授業者は考える必要があります。その際に大切なことは、単式学級でも複式学級でも育成を目指す資質・能力が身に付いた児童の姿はどのような姿なのかを明確にし、その姿を「いつ」「何で」見取るのかといった評価場面や評価方法を設定することです。そのうえで、それぞれの学年において、子供に任せる場面や教師が介入する場面といった学習活動の内容や展開を考えると、「間接指導」と「直接指導」の適切な組み立てにつながります。





各グループで、それぞれの学年において、どのような記述であれば概ね満足できる状況と判断できるか、吟味検討しました。

元仁淀川町立長者小学校長
中部教科研究センター指導アドバイザー
片岡　さえ　先生




**～より良い複式授業をめざして～**

①基本は「授業スタンダード」
②「とも学び」は、必ず「直接指導」になるように
③思考を深める・練り合う場面をつくる
④単元の組み方
⑤学習リーダー
⑥子どもの興味関心・意欲を引き出す
⑦子どもの反応をできるだけ的確に予想
⑧算数の一人学びでは、自分の考えを文章でノートに書く
⑨ロイロノート等、ＩＣＴ機器を活用する
⑩地域の人材活用（学習支援）

**【参加者の声（教材研究会）】**

・指導と評価の一体化というところで、どのように指導していくのか、子供の姿をどう評価していくのか、具体的に話し合うことができてよかったです。普段の授業の中でも、どこで評価するのか、どう評価するのか、教師自身がしっかりおさえておきたいと思いました。
・初めての複式学級で日々悩んでいたことを、他校の先生とも話し合うことができました。複式の授業づくりにおいて、単元の導入をずらしたり、とも学びには教師が介入したりすることが大切だと学びました。

## 授業研究会

### 児童自ら学びを進めるための環境づくり～自立した学習者の育成に向けて～

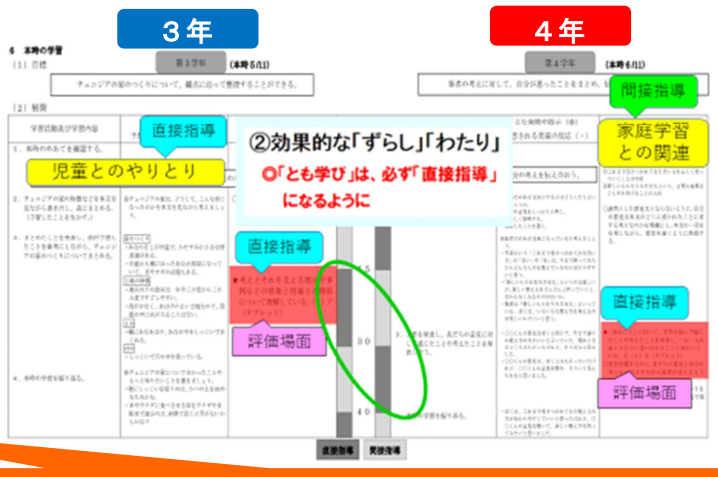
複式の授業で、間接指導の時間は児童だけで学びを進める時間です。その際、児童が学習活動の流れだけでなく、何について、どのように考えればよいか、学習の見通しをもつことが大切です。また、教師の指示や発問等を精選し児童の活動の時間を十分確保したり、学びの環境を整えたりする必要があります。

基礎的・基本的な知識・技能等や、言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力等を土台として、幼児期からの様々な場を通じての体験活動から得た子供の興味・関心・キャリア形成の方向性等に応じ、探究において課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現を行う等、**教師が子供一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することで、子供自身が学習が最適となるよう調整する「学習の個性化」も必要である。**
『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して』　中央教育審議会答申（令和３年１月 26 日）

**【環境づくりについて】**
- **掲示用の教材文（考えの根拠）**
- **メニューボード（活動の流れ）**
- **タブレット（相互参照）**
- **大型モニター（考えの比較）**

児童が考えを比較しやすいよう、モニターにそれぞれがまとめた表を映し出している。また、叙述のどの部分を用いているのかも見やすいように黒板に対するモニターの位置も工夫している。

評価場面では直接指導に入り、児童の学習状況を評価します。概ね満足できる状況がみられない場合は、教師が問いかけたり、児童の発表に対して切り返したりしながら指導することが大切です。本時のゴールの具体的な児童の姿を明確にしていることが的確な指示や手立てにつながります。



指導計画の通りに「わたり」を行うことが大切ではなく、計画とは違っていても児童がゴールの姿（※教材研究会で検討）に向かっているか様子を伺い、軌道修正や個別の支援が必要な状況だと判断した時は直接指導を行うことも大切です。

**【参加者の声（授業研究会）】**

・複式の授業づくりにおいて、児童が主体的に学習を進めるための事前の準備や教師の声掛けなどが学びになった。また、直接指導や間接指導の教師の動きについても必要最小限にされており、自校でも実践したいと思った。そのためには、授業における児童の姿を具体的に想像し、ねらいを明確にした授業づくりを行いたい。
・複式学級の授業を見ること自体初めてだった私にとっては、全てが学びでした。その中でも、児童の主体性に驚きました。その主体性を引き出す教師の「学びを支援する伴走者」としての役割の在り方をこれから追求していきたいと感じました。